

高齢者の肺炎球菌 予防接種を受ける方へ

1. 高齢者の肺炎球菌 予防接種の効果と副反応

【効果】

肺炎球菌には、100 種類以上の血清型があり、定期接種で使用される沈降 20 価肺炎球菌結合型ワクチン（PCV20）は、そのうち 20 種類の血清型を対象としたワクチンです。この 20 種類の血清型は、成人侵襲性肺炎球菌感染症(※)の原因の約 5～6 割を占めるという研究結果があります。

※侵襲性感染症とは、本来は菌が存在しない血液、髄液、関節液などから菌が検出される感染症のことをいいます。

【副反応】

ワクチン接種部位の疼痛・圧痛、筋肉痛、疲労、頭痛、関節痛、紅斑、腫脹がみられることがあります。頻度は不明ですが、ショック・アナフィラキシー、痙攣（熱性痙攣含む）、血小板減少性紫斑病がみられることがあります。

2. 予防接種を受けることができない方

- ① 明らかに発熱がある方
- ② 重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな方
- ③ ジフテリアトキソイドによってアナフィラキシーを呈したことがあることが明らかな方
- ④ 上記のほか、予防接種を行うことが不適応な状態にある方や、医師が予防接種を受けることが不適当と判断した方

3. 予防接種を受ける際に、医師とよく相談しなくてはならない方

- ① 心臓血管系疾患、腎臓疾患、肝臓疾患、血液疾患等の基礎疾患がある方
- ② これまでの予防接種で、接種後 2 日以内に発熱、全身性発疹などのアレルギーを疑う症状がみられた方
- ③ 過去にけいれんを起こしたことがある方
- ④ 免疫不全の診断がされている方、及び近親者に先天性免疫不全の者がいる方
- ⑤ 沈降 20 価肺炎球菌結合型ワクチン（PCV20）の成分や、ジフテリアトキソイドに対してアレルギーを呈するおそれのある方
- ⑥ 血小板減少症、凝固障害、抗凝固療法を受けている方

4. 肺炎球菌予防接種と他の予防接種との接種間隔

肺炎球菌ワクチンと他のワクチンとは、接種間隔について制限はありません。また、医師が必要と認めた場合は、同時接種することができます。

5. 接種後の注意

- ① ワクチン接種後、一定時間は安静にしてください。また、体調に異常を感じた場合には、速やかに医師へ連絡してください。
- ② 注射した部分は清潔に保つようにしてください。接種当日の入浴は問題ありません。
- ③ 当日の激しい運動は控えるようにしてください。

6. 予防接種健康被害救済制度について

予防接種法に基づく予防接種を受けて健康被害（入院を必要とする程度の疾病や障害又は死亡など。通常起こり得る副反応は除く）が生じた場合、因果関係を国の審査会にて審議し、当該予防接種を受けたことによるものであると厚生労働大臣が認定したときは、健康被害の程度等に応じて、医療費、医療手当など法律で定められた金額が支給されます。

給付申請の必要が生じた場合には、診察した医師、久留米市保健所保健予防課へご相談ください。また、請求には期限がありますのでご注意ください。